

「浅間山の日」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

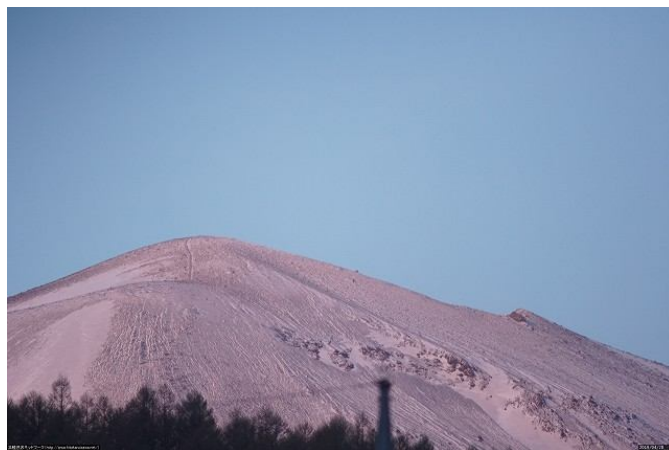
私の山荘では、2004年の噴火以来、浅間山の遠隔観測を継続的に行っている。「浅間山映像観測所」と呼んでも良いと思っている。特に力を入れているのが、デジタル一眼レフカメラの遠隔操作による、火山観測だ。現在浅間山は目立った活動はしていないが、4月27日から28日の様子を、アーカイブ画像から選んで並べてみた。



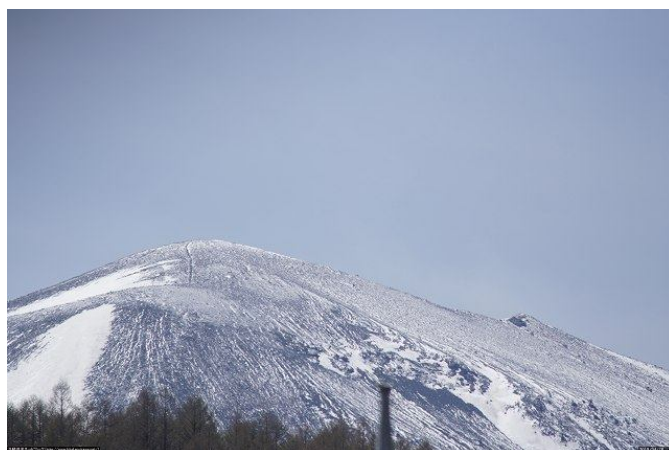
4月27日 20:10 前日の雪で、山頂付近は真っ白になっている。この晩は快晴で、星が非常に美しかった。山頂左上に見える星の集まりは、かに座の「プレセペ星団」である。かに座は春の星座だが、もう西に傾く季節になってきたということだ。



4月28日 03:50 早くも薄明が始まり、空が白み始めた。見える星の数も少しずつ減ってきている。このような状態の空を「天文薄明」といい、天体観測を終了する目安になる時間帯である。



4月28日 05:00 雪をかぶった浅間山が、桃色に染まった。「紅富士」ならぬ「紅浅間」である。これは日の出前の一瞬、太陽光のうち紅色の成分だけが、山肌に薄く射す現象だ。日の出前の西の空に現れる「地球影」「ヴィーナス・バンド」と似た現象だ。この朝の山麓の最低気温は、 -2°C だった。



4月28日 11:00 晴れて気温が上がったので、早くも山肌の雪が融けだした。恐らく、1cm程度しか積もっていなかったのだろう。



4月28日 18:00 この一日で、雪はほとんど融けてしまった。しかし、5月でも山麓に雪が積もることがあるので、まだ安心はできない。